

「パキスタンでの業務経験紹介とその当時のお国柄について」

鬼頭良徳(S36機械)桂紙業/元日立造船

【要旨】

それまでに経験したことのない機種を担当としてパキスタンに出張して一人でメンテナンスを担当したことを簡単に述べます。
それまでは自動車用プレスや船用ディーゼルエンジンの製作を担当していたが、ここでは鉄の構造物を扱う仕事である。
なお、仕事の片づけとして税務処理など事務的な仕事も片付けなければならず、国民性や宗教の違いなどを考えると困難な仕事であった。
当時の社会情勢も含めて一考しようと思う。

パキスタンでの業務とお国柄紹介

- 1．略歴
- 2．パキスタンの地図
- 3．パキスタンでの業務
 - 3 - 1．インダスベイシンプロジェクト
 - 3 - 2．当社の担当工事
 - 3 - 3．マララバラージ建設での業務
- 4．当時のお国柄
 - 4 - 1．働き方
 - 4 - 2．治安状況
 - 4 - 3．食べ物
 - 4 - 4．言葉

略 歴

- 高知県出身
- 土佐高校(中高一貫校への高校からの入学)
- 東工大機械科塑性力学
- 日立造船桜島工場(現ISJの一部)
 - 製缶工場→自動車用プレス機→船用エンジン
 - エンジン検査→パキスタン出張(鉄構)
 - プラント関連(中国・インドネシア等担当)
 - 向島工場(安全担当部長)
- 桂紙業(現在)

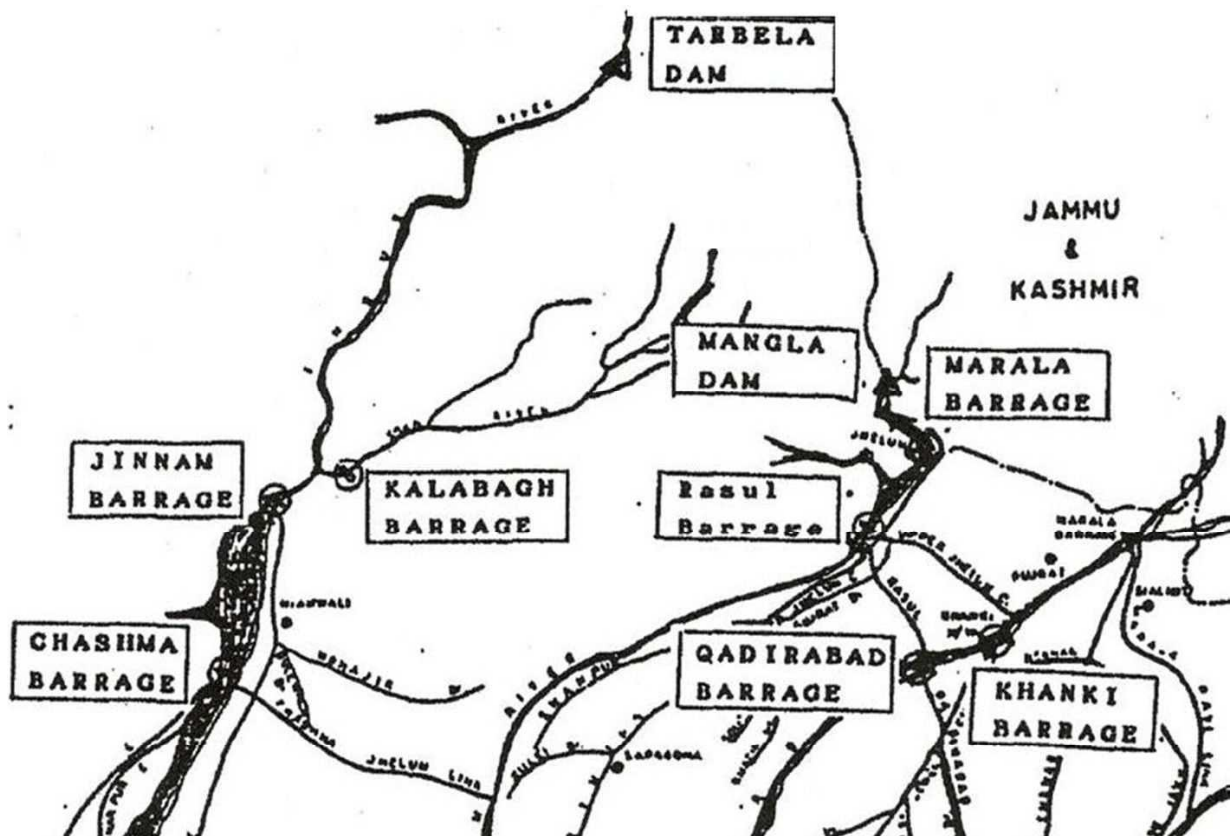
パキスタンの地図



パキスタンの状況

- 1. 面積：94.3km²(日本の約2.5倍)
- 2. 人口：37,142万人
- 3. 民族：パンジャブ人、シンド人、パシュトゥン人、
バローチ人、ベンガル人
- 4. 言語：ウルドゥー語、ベンガル語、英語(民族により言語が異なる)
- 5. 宗教：イスラム教
- 6. 通貨：ルピー(75円/ルピー、現在は約1.2円/ルピー)
- 7. 日本：360円/ドル固定(持出可能額：5万円)
- 8. 連邦共和国
- 9. 議会：2院制
- 10. 首都：ラウルピンジ(現在はイスラマバード、ダッカ)
現在はパキスタンとバングラデシュ

インダスベイシンプロジェクト



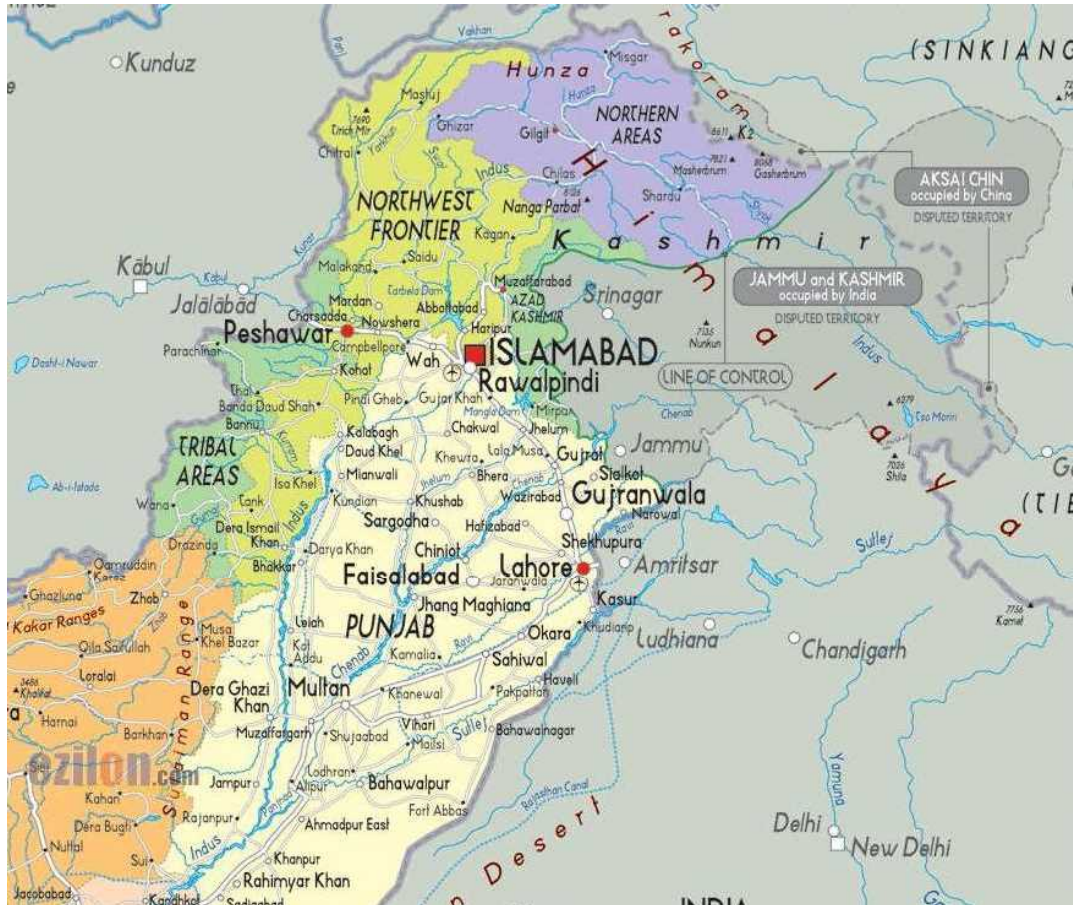
当社担当工事

- 1 . コーデラバードバラージ
- 完成しており、メインテナンスに入っていた
- 2 . マララバラージ
- 完成後のメインテナンス開始時期
- 3 . ターベラダム
- 工事中
- 4 . チャスマバラージ
- 工事前、資材受け取り等のため出張

日本での駐在員の選択

- 1名のみ駐在とのことで声をかけた全員が断った
- 家族での出張を許可した
- それでも誰も出張する人が出ない。最終的に仕事上全く関係のなかった私に白羽に家が立った
- 家内は一言で同意

マララバラーズ付近の地図



マララバラーズ建設担当国

- コンサルタント会社：フランス
- 1家族(夫婦と子供2人)が駐在
- 検査会社：イギリス
- 1名駐在(英語の良くわからないウエールズ人)
- 土木建築会社：ドイツ(ズブリン)
- 1家族(夫婦と子供1名)と
- 2名(独身者、スリランカ人)
- 医者：ドイツ人(夫婦)
- 機器供給会社：日本(日立造船)

マララバラージでの業務

- 完成したバラージのメンテナンス
 - 1．機器操作の指導及び洪水時の扉開閉
 - 2．毎日のバラージ見回り
 - 3．水門扉のペンキ修理指導及び実施
 - 4．税務処理
- バラージ担当者及び建設業者との交渉
- チャスマバラージの資材受け入れ及び事務処理
- 担当者が出張してくるまでの工事を実施

マララバラージ

- 1．メインゲートは10m、66門。 約1 Km
- 2．灌漑用ゲートは3m、5門。2本
- 3．両側でのワイアによる巻き上げ式
- 4．停電時には非常用発電機を使用

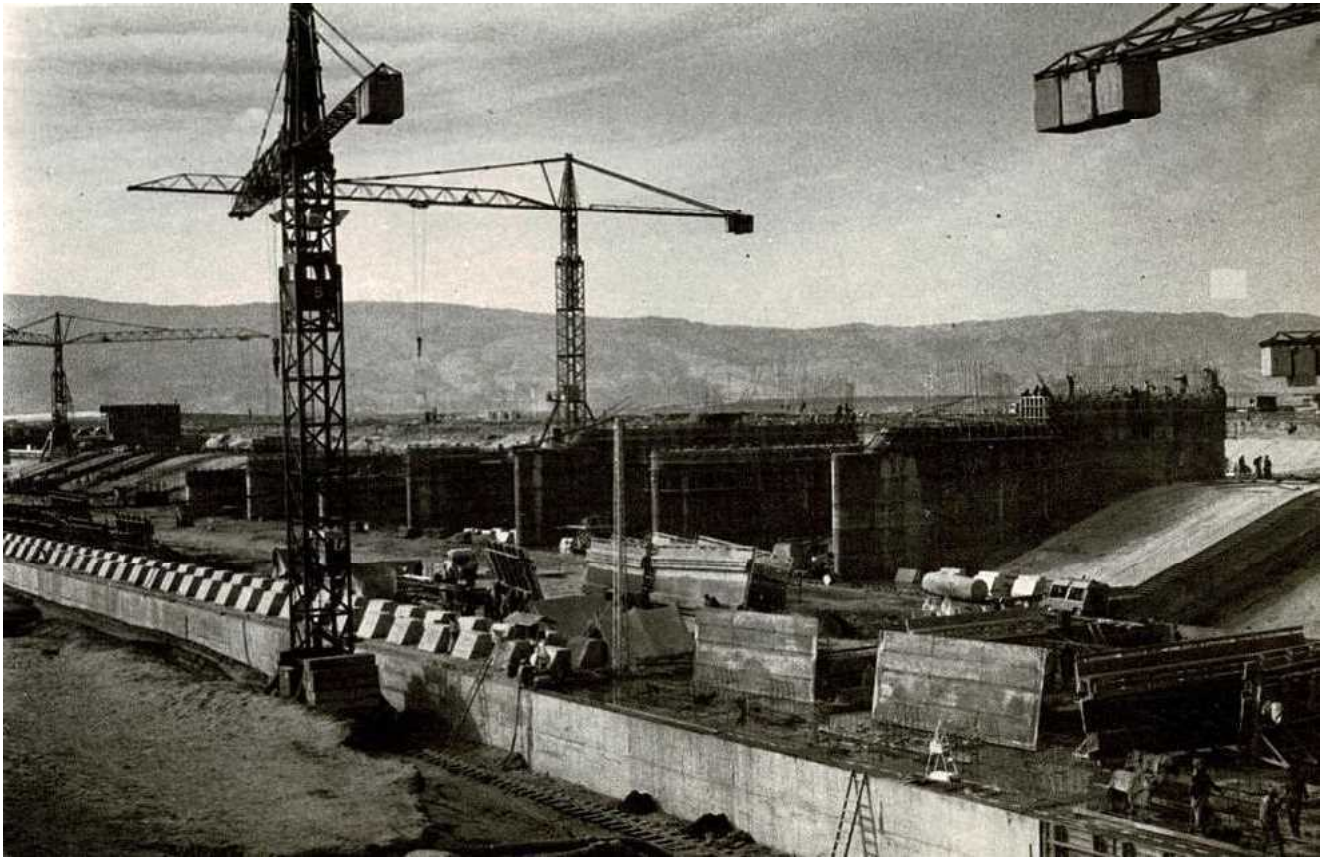
マララバラーヅ建設写真



マララバラーヅ建設写真



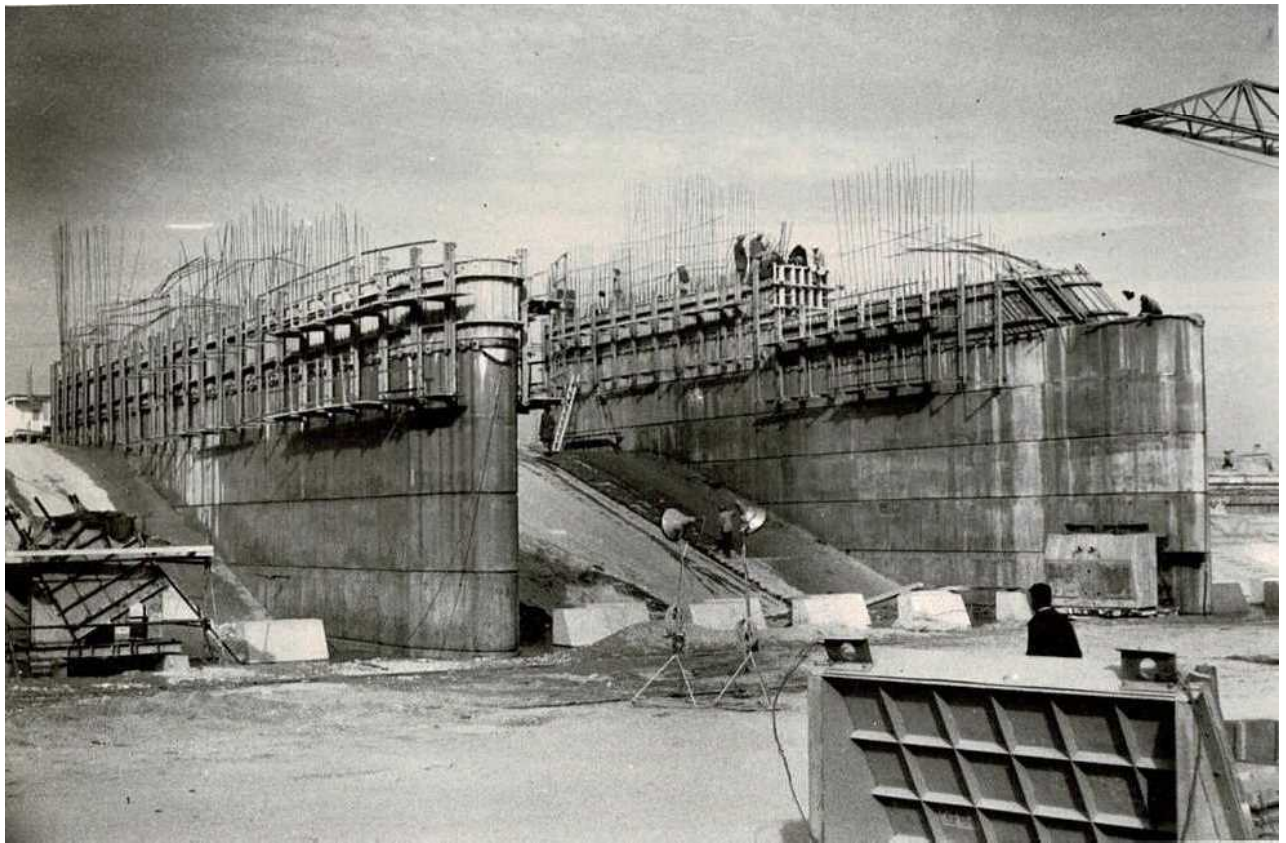
マララバラーヂ建設写真



マララバラーヂ建設写真



マララバラーヂ建設写真



マララバラーヂ建設写真



マララバラージ完成写真



マララバラージ完成写真



マララバラーヂ完成写真



マララバラーヂ完成写真



マララバラーズ建設写真



パキスタン人の働き

- 1．女性が勤勉に働く
- 2．バラーズでの作業員に3名、運転手等家の作業員に4名男性を雇っていたが、命令したことしか仕事をしない。また、2個以上の仕事を命ずると一つの仕事が終わると次の仕事を忘れて行かない。3個以上の仕事を命ずると一つも行われず、ただポケーと座っているだけ！
- 3．パキスタン人と宗教
 - モスリムは1日に6回お祈りするのが原則です。午前6時から午後10時までに行う。ただし、外国に行けばお祈りしなくてもいいとのこと。午前10時と午後3時は会議をしようという関係なくお祈りの入る。お客はその間毎回約30分間会議室で待たされる。

パキスタン人の働き

- 4．昼休み
午前11時から午後2時までは完全に休憩するため、一日仕事しても実質は3時間くらいである。この間、食事と昼寝の時間を取る。
- 5．終業
一応午後5時～6時まで働くことになっているが、午後4時になると帰り支度を始める。実質良くて3時間くらいしか働かない。
- 6．会議中のおしゃべり
とにかくおしゃべりが好きである。なるべく働く時間を短くするのが目的のように感じられる。

治安状況

- 1．現在のようなテロリストはいなかったもので、テロによる被害はすくなかった。
- 2．私が住んでいた、ラホールからラウルピンジ、インダス川までのパンジャブ地方は特に治安が良く、襲撃されることはなかった。
- 3．マララの近くのシアルコットはインドとの戦争時には一番先に攻撃される場所であり、戦争の傷跡がいくつも残されていた。
- 4．ラウルピンジからインダス川までの間では、治安が良いと言っても時々外国人の死体が転がっていることがあると住民が言っていた。午後4時以降は車でも外出しない方が良いとのことであった。

治 安 状 況

- 5 . インダス川からペシャワール、カイバルパスにかけては当時でも治安が悪く、午後4じ以降は決して通行してはいけないと注意された。
- 6 . ペシャワールでは一家の家長は武力で一家を治め、次男以下の誰かが頭を使って、外部と対 応 するようになっているとのことであった。
- 私が訪問した家では、長男が武力でまとめ、次男が知的な方法でまとめているとのことであった。
- 7 . 当社が担当したチャスマバラージはこの危険な地域にあり、私が出張するときには、マララを朝4時頃に出発して、ごご3時までにはチャスマバラージに着くようにしていた。

首 都

- 1 . 首都は、ラウルピンジであった。
- 2 . イスラマバードは建設中で、広い道路が十字に建設されているだけであり、大統領府がまさに建設途上にあった。
- 3 . イスラマバードはラウルピンジ近郊の岩山のあ
る、砂漠に近い場所に建設していたので、土地 　　は
いくらでもあり、好きなところにビルを建設でき
るように思われた。

食 物

- 1 . 肉類
肉類は、鶏、羊、水牛が主なものであるが、生きた鶏を購入するのが普通である。
- 2 . 主食
インドにはナンがあるが、これと同じよなものでチャパティーというものが主食であった。ナンよりも少し薄いあっさりした食感である。油を全く使わないのでべたつきがない。
- 3 . カレー
スープのような澄み切ったチキンカレーは絶品である。日本で食べてみたいが今まで見つけれ
ない。

言葉

- 1 . 現地語
現地には、50以上の言語があり、メインの言葉は東1個、西4個である。互いに通じないので、英語で意思疎通している。
- 2 . 発音
 - **japani, chini, pakistani**等
 - チャッチャー、ラルカー、バッチャー等
 - チャッチー、ラルキー、・・・・等
- 3 . 英語
 - **army, today, japani**等
- 4 . 数字
エク、ドー、チーン、チャール、パンチ等

- ご清聴ありがとうございました。